

一つではつまらない >>>

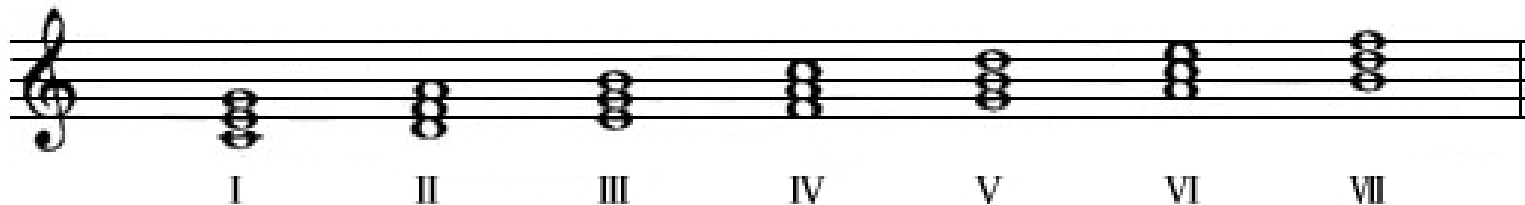
和音記号

コードネームは、演奏では便利  
しかし、曲を分析するには不向き



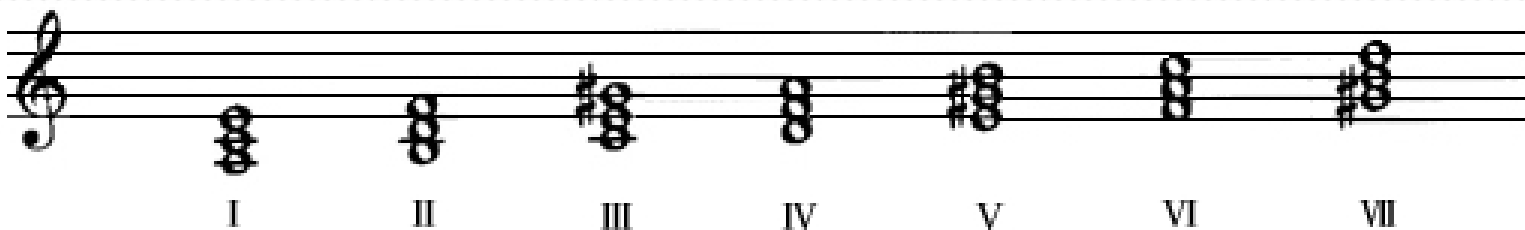
アナリゼ（楽曲分析）には、和音記号を使う。

ハ長調



key : C

イ短調



key : a

和音記号(芸大方式) >

A musical staff in treble clef showing three chords. The first chord is a triad with notes C4, E4, and G4, labeled 'I'. The second chord is a triad with notes E4, G4, and B4, labeled 'I<sup>1</sup>'. The third chord is a triad with notes G4, B4, and D5, labeled 'I<sup>2</sup>'.

基本形      第一轉回形      第二轉回形

A musical staff in treble clef showing four chords. The first chord is a triad with notes C4, E4, and G4, labeled 'V<sub>7</sub>'. The second chord is a triad with notes E4, G4, and B4, labeled 'V<sub>7</sub><sup>1</sup>'. The third chord is a triad with notes G4, B4, and D5, labeled 'V<sub>7</sub><sup>2</sup>'. The fourth chord is a triad with notes B4, D5, and F5, labeled 'V<sub>7</sub><sup>3</sup>'.

基本形      第一轉回形      第二轉回形      第三轉回形

# 轉回形 >

# 第一転回形

# 第二転回形

最低音ミの6度上に  
根音ドがある

## 六の和音

## 四六の和音

基本型      第1転回型      第2転回型

I      I<sub>6</sub>      I<sub>4</sub><sup>6</sup>

C:      V<sub>5</sub><sup>6</sup>

第一転回形  
五六の和音

C:      V<sub>3</sub><sup>4</sup>

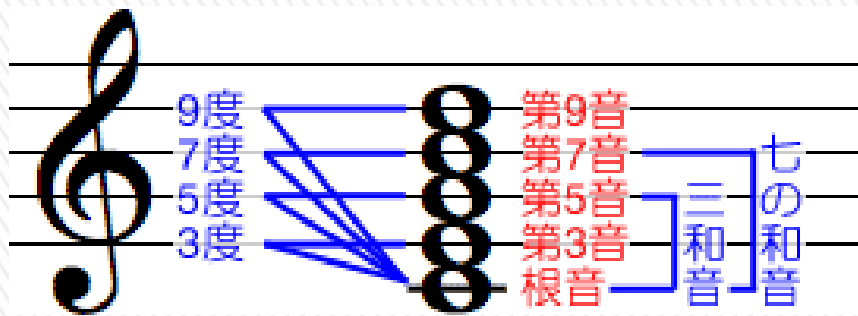
第二転回形  
三四の和音

C:      V<sub>2</sub>

第三転回形  
二の和音

# 転回形の別表現





## 9の和音

c:  $V_9$

シレファラは、9の和音の根音・ソを省略したと解釈可能。  
 しかし、アメリカの本では、viiと書かれることが多い。

属9の和音の根音省略形

根音省略形 >

調性



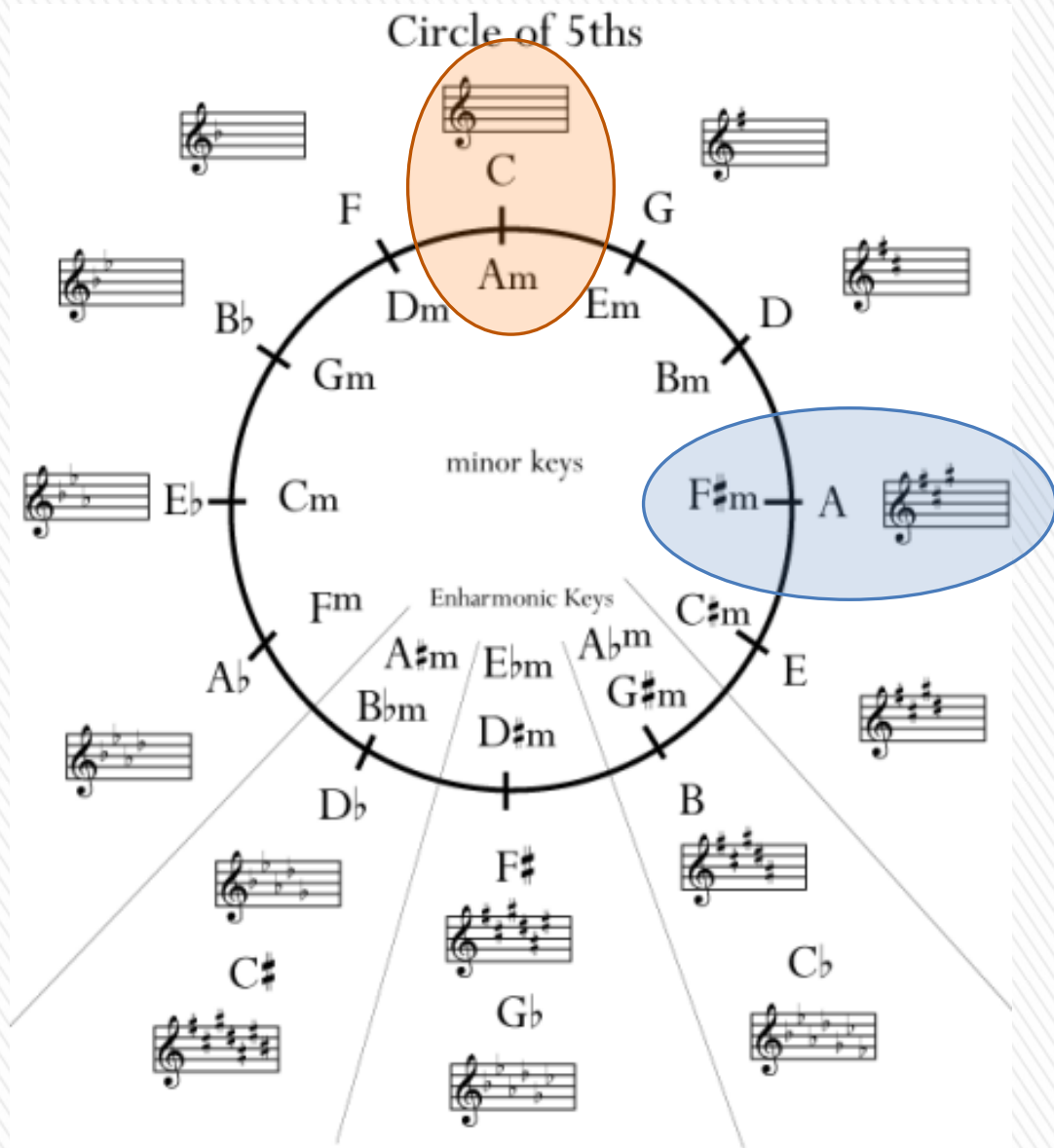
key: C ハ長調  
key: Am イ短調

key: A ホ長調  
key: F#m 嬰へ短調

#一つ  
= 主音を完全5度上げる

b一つ  
= 主音を完全5度下げる

12の調(キー)

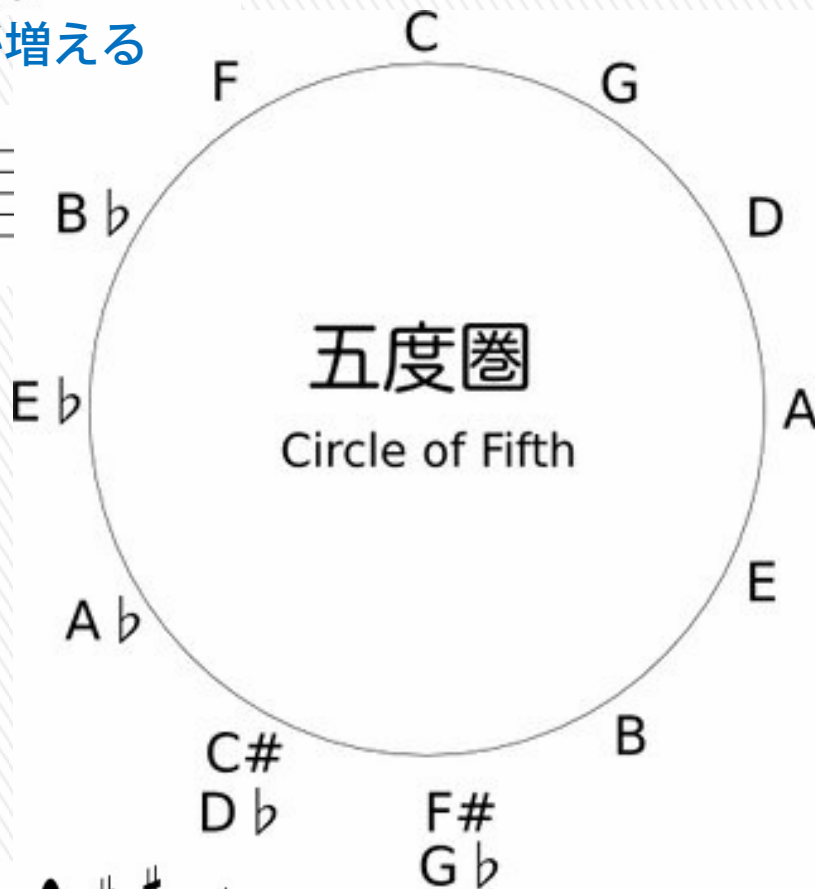




1 個ずつ ♭ が 増える



1 個ずつ # が 増える



右回りに 5 度ずつ 上がる

→ **五度圏**

左回りに 4 度ずつ 上がる

(= 5 度ずつ 下がる)

→ **四度圏**

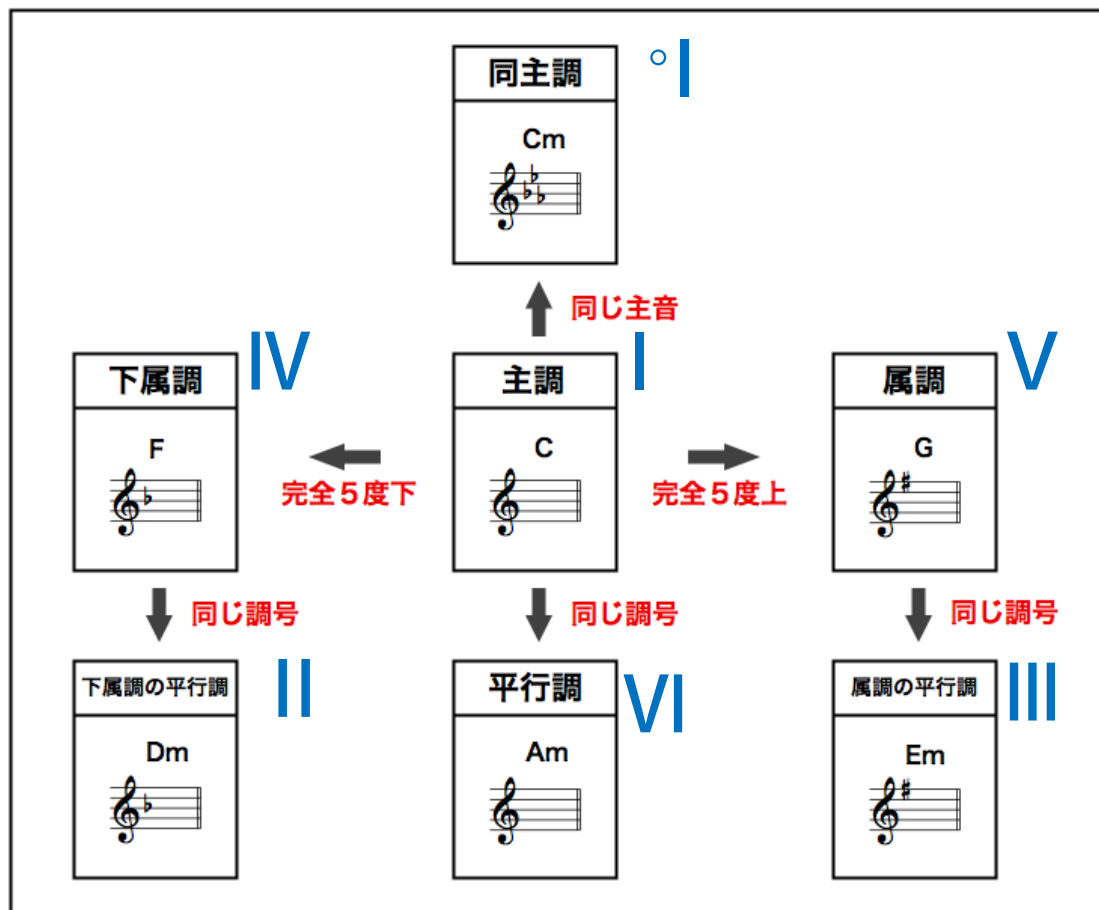


# 五度圏





ある調を中心に、一定の関係にある調を「**近親調**」という。



近親調

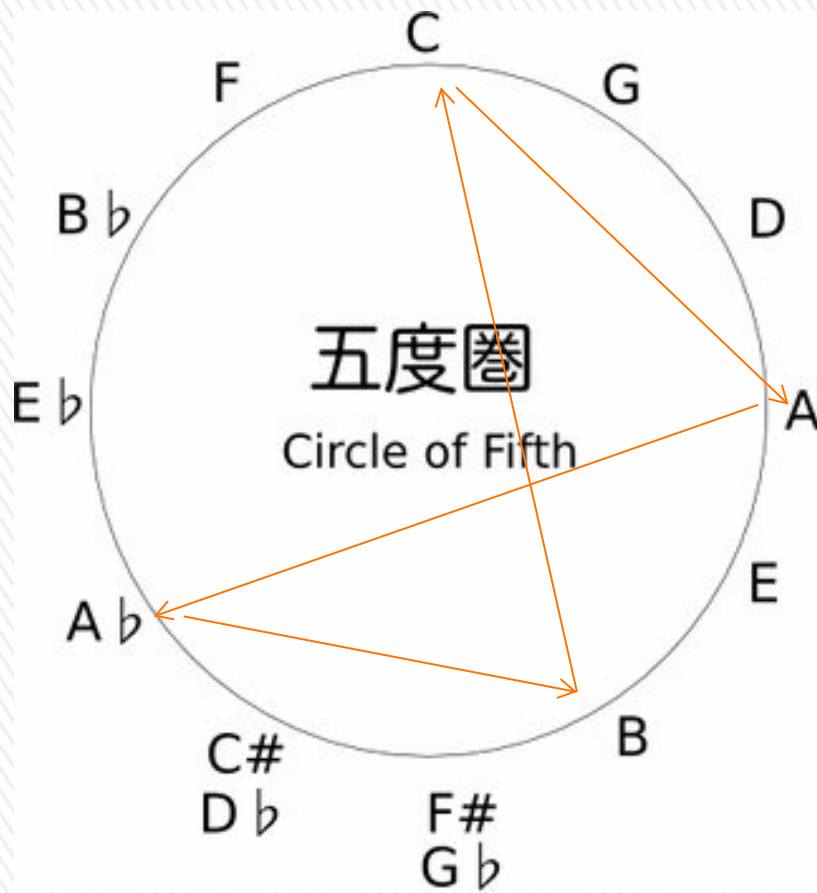


	同主調 (° I 調)	
下屬調 (IV 調)	主調 (I 調)	屬調 (V 調)
下屬調の平行調 (II 調)	平行調 (VI 調)	屬調の平行調 (III 調)

	ハ短調	
ヘ長調	ハ長調	ト長調
ト短調	イ短調	ホ短調

例) ハ長調の近親調





轉調



転調の範囲として、和音記号を（ ）でくくる。  
そのさい、何調に転調しているかを、左カッコの左上に、  
各音度調の調名を書く。

### X調に転調した場合

X ( )

### たとえば、V調に転調した場合

V ( )

転調の表記 ▶

副Vの和音は各調のV度の和音であるため、  
その調のドミナントであり、その調のトニックに解決する。  
副Vの和音は、II調のVを借用した場合、II度V度と呼び、  
借用した調を示すローマ数字をVの上に書く。



主調がハ長調の場合、II調（二短調）のVを借用すると、

d: V-Iのように、二短調のなかでD-Tの連結をしなければならない。

C : II ( V I )

かっこをはずすと、下のように書ける。

C : ♯V II

副Vの和音 >

違う調の和音を使う場合は、二つに分けられる。

1 一時的に使う（借用和音）

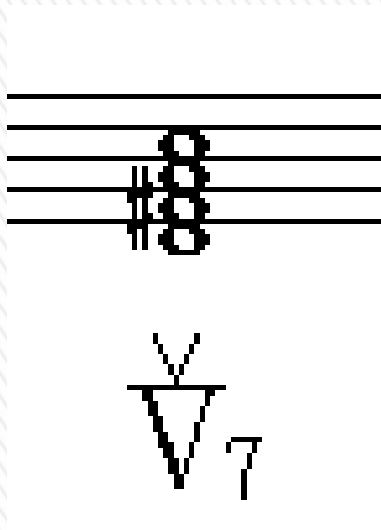
（1） 副Vの和音

（2） 準固有和音

2 ずっと使う（転調）

違う調の和音を使う





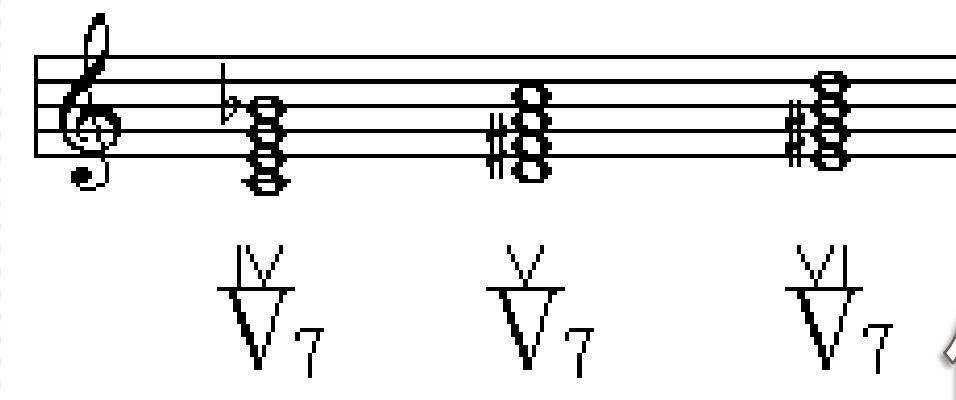
key: Cの5度上の調は、Key:G

Key:GのV7は、レファ#ラド

V調のVの和音 = **ドッペル・ドミナント**

IV調のVの和音

VI調のVの和音



借用和音



長調では、同主短調から和音を借用できる。  
ただし、借りられるのは、IIとIVとVIのみ。

これを**準固有和音**といい、「○」を音度の左側につける。  
○II、○IVなどのように書く。

例) ハ長調で、IIの和音の構成音はレファラ  
ハ短調のレファラ $\flat$ をまぜることができ、これを○IIと書く。

注： 短調の和音を借りたら、長調のVかIが鳴るまで、  
借り続けるといけない。

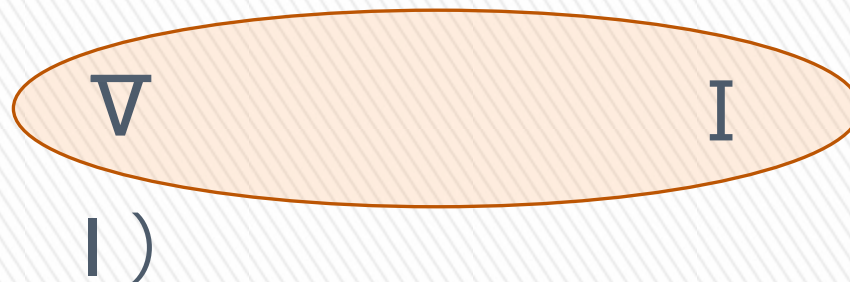
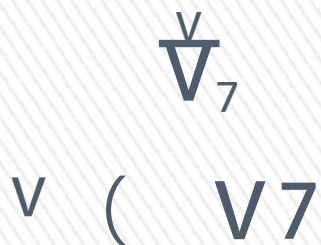
借用和音 ② >



副Vの和音  
準固有和音

借用和音





Key:Gに一時的に転調



ドッペル・ドミナントを使った転調 >

$A_7 \Rightarrow Dm$

$\overset{\text{II}}{\underset{7}{\vee}}$

II

V度調以外にもドミナントをおける

$C_7 \Rightarrow F$

$\overset{\text{IV}}{\underset{7}{\vee}}$

IV

セカンダリー・ドミナント  
副V (副5度)

$\overset{\text{V}}{\underset{7}{\vee}} \dots \overset{\text{IV}}{\underset{7}{\vee}} \overset{\text{VI}}{\underset{7}{\vee}} \blacktriangleright$